

令和7年度事業報告書

令和7年度における事業の状況は、次のとおりであった。

I. 会務・組織運営

1 理事会

- (1) 令和7年4月14日 令和7年第3回理事会（書面決議による開催）
 - ア 評議員候補者の推薦について
 - イ 事務局長及び支所長の選任について
- (2) 令和7年6月12日 令和7年第4回理事会
 - ア 令和6年度事業報告の承認について
 - イ 令和6年度計算関係書類及び財産目録の承認について
 - ウ 理事候補者の推薦について
 - エ 監事候補者の推薦について
 - オ 評議員候補者の推薦について
 - カ 評議員選任・解任委員の選任について
 - キ 苦情解決第三者委員の選任について
 - ク 定時評議員会の開催について
- (3) 令和7年6月25日 令和7年第5回理事会（書面決議による開催）
 - ア 理事候補者の推薦について
- (4) 令和7年7月4日 令和7年第6回理事会
 - ア 会長の選任について
 - イ 副会長の選任について
 - ウ 志賀町共同募金委員会運営委員の推薦について
- (5) 令和7年12月25日 令和7年第7回理事会
 - ア 令和7年度資金収支補正予算（第1号）について
 - イ 指定訪問介護事業所運営規程の一部を改正する規程について
 - ウ 指定介護予防訪問介護事業所運営規程の一部を改正する規程について
 - エ 訪問介護サービスステーション訪問型サービスA運営規程の一部を改正する規程について
 - オ 訪問介護サービスステーション指定障害福祉サービス居宅介護等事業所運営規程の一部を改正する規程について
 - カ 職務に専念する義務の特例に関する要綱の制定について
- (6) 令和8年3月25日 令和8年第1回理事会
 - ア 令和7年度資金収支補正予算（第2号）について
 - イ 令和8年度事業計画について
 - ウ 令和8年度資金収支予算について
 - エ 職員給与規程の一部を改正する規程について
 - オ 役員等賠償責任保険契約について
 - カ 理事候補者の推薦について
 - キ 身体障害者等移送サービス事業運営規程の一部を改正する規程について
 - ク 経理規程の一部を改正する規程について

2 評議員会

- (1) 令和7年6月27日 令和7年第1回評議員会
 - ア 令和6年度事業報告の承認について
 - イ 令和6年度計算関係書類及び財産目録の承認について

ウ 理事の選任について

エ 監事の選任について

3 監事会

(1) 令和7年5月26日 令和6年度下半期の会計監査及び令和6年度決算監査

(2) 令和7年12月5日 令和7年度上半期の会計監査

4 評議員選任・解任委員会

(1) 令和7年5月26日 令和7年第1回評議員選任・解任委員会

ア 評議員の選任について

(2) 令和7年12月5日 令和7年第2回評議員選任・解任委員会

ア 評議員の選任について

5 寄附採納業務

年間寄附件数は21件で、現金1,264,215円の寄附をいただいた。

E N E O S リニューアブル・エナジー株式会社から災害ボランティアセンターの運営支援として1,000,000円をいただいた。

【寄附金明細】

(単位：円)

No.	氏 名	住 所	金 額
1	花島 繁	志賀町安津見	100,000
2	田中 崇晶	志賀町高浜町	100,000
3	藤本 啓介・家族一同	志賀町福野	50,000
4	山本 紀彦	志賀町三明	5,827
5	太川 重雄	志賀町高浜町	100,000
6	松本 二三秋	愛知県名古屋市	200,000
7	落合 邦夫	志賀町大福寺	100,000
8	羽倉崎福祉委員会	大阪府泉佐野市	27,940
9	藤本 啓介	志賀町福野	20,000
10	匿名	志賀町	2,000
11	匿名	志賀町	6,299
12	志賀町婦人加工連絡会		10,000
13	旧志賀町電算室会		10,548
14	土田LDC		13,902
計			746,516

【ボランティア育成基金寄附金明細】

(単位：円)

No.	氏 名	住 所	金 額
1	大田区災害支援ボランティア調整センター	東京都大田区	163,200
2	社会福祉法人育徳園	大阪府大阪市	200,000
3	山之内連合女性部	大阪府大阪市	50,000
4	依羅連合女性部	大阪府大阪市	50,000
5	トヨタ自動車株式会社 HUREAI 活動本部	愛知県豊田市	24,010
6	大阪市住吉区社会福祉協議会	大阪府大阪市	10,489
7	兵庫県立舞子高等学校環境防災科	兵庫県神戸市	20,000
計			517,699

6 基金運用

(1) 寄附金53,968円及びまごころ基金管理にかかる預金利息15,339円をまごころ基金に組み入れた。

(2) 本会に寄せられた能登半島地震義援金等517,699円及びボランティア育成基金管理にかかる預

金利息 3,471 円をボランティア育成基金に組み入れた。

- (3) まごころ基金から、公用車購入費として 520,000 円、パソコン購入費として 2,000,000 円、広報誌印刷費として 1,169,000 円を取り崩した。
- (4) ボランティア育成基金から、災害ボランティアセンターの運営費として 5,137,349 円を取り崩した。

【基金運用状況】

(単位：円)

基金名		志賀町社会福祉協議会 まごころ基金	志賀町ボランティア 育成基金	運用資金積立預金	合 計
令和 6 年度末		13,064,712	6,655,396	40,886,000	60,606,108
内 訳	増加額	69,307	521,170	0	590,477
	減少額	3,689,000	5,137,349	20,000,000	28,826,349
	差引増減額	△3,619,693	△4,616,179	△20,000,000	△28,235,872
令和 7 年度末		9,445,019	2,039,217	20,886,000	32,370,236
管 理 内 訳	現金	0	0	0	0
	預金	定期 5,000,000	定期 0	定期 0	32,370,236
		普通 4,445,019	普通 2,039,217	普通 20,886,000	
	その他	0	0	0	0

Ⅱ. 地域福祉活動推進事業

1 地域福祉活動計画の推進

(1) ボランティアのニーズ把握と情報提供

ボランティアセンターにおいてニーズの把握と情報提供や関係機関との連絡調整を図った。

(2) 世代間交流の推進

老人クラブ会員による世代間交流活動の支援を行った。

- ・志賀小学校と富来小学校において、ペタンクや昔遊びを通して交流した。
- ・志賀高校文化祭に参加して、来場者とお手玉やけん玉、あやとりなどの昔遊びで交流した。
- ・11 月 30 日に志賀町防災公園で開催された「防災・世代間イベント in しか」に参加して来場者と e スポーツ体験やニュースポーツなどを通して交流した。
- ・志賀高校生が企画した志賀高校生、志賀小学校うみかぜ・かがやき学級、老人クラブ連合会の交流会に参加して、レクリエーションや出し物などを通して交流した。
- ・老人クラブ連合会が主催する余技展及び書初め展で体験コーナーを設けて、児童等参加者と交流した。

志賀町遺族会による小学生への平和教育事業の支援を行った。

(3) 事業者の協力による見守り支援体制の構築

石川県及び志賀町と協定を締結して見守り活動を行っている民間企業の把握に努めた。

(4) サロン活動や交流活動の支援

社協広報誌「しかふくし」やホームページに現在活動している様子を掲載し、サロン活動の周知を図った。

(5) 福祉関係機関の連携による情報提供の仕組みづくり

地域包括支援サブセンター業務を通して、地域包括支援センター、福祉・医療関係機関と情報交換を行った。

2 第 15 回志賀町社会福祉大会の開催

7 月 30 日に社会福祉関係者 147 名が一堂に介し、相互の連携による社会福祉の更なる発展を目指して本大会を開催した。式典では、社会福祉活動で功績が顕著であった方 26 名に会長表彰、1 名に会長感謝状を授与した。「防災（災害）×福祉」と題して、特定非営利活動法人にいがた災害ボランティアネットワーク理事長 李 仁鉄氏による記念講演の後、李氏、役場職員、社協職員によるトークセッションを行い、令和 6 年能登半島地震の振り返りと今後の防災について話し合った。

3 総合相談事業（町受託事業）

総合相談所を毎月 1 回開設し、地域住民の日常生活上の心配ごとについての相談に応じ、指導・助言を行った。

【月別相談件数】

（単位：件）

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
2	1	3	5	3	3	6	6	5	3	3	3	43

（偶数月：志賀会場、奇数月：富来会場）

【相談内容】

（単位：件）

生計	年金	職業・生業	住宅	家族	結婚	離婚	健康・衛生	医療	精神衛生	人権・法律	財産	事故	母子保健・児童福祉	教育・青少年	心身障害者（児）福祉	母子福祉・父子福祉	老人福祉	苦情	その他	合計
			9	3							21	3	1						9	46

4 高齢者生きがい事業（町受託事業）

羽衣大学を富来活性化センターにおいて 6 回開催し、高齢者の生きがいづくりを図った。

【講義内容・出席者数（出席率）】

内 容		出席者数
第 1 講義 1月29日	日本列島民謡めぐり 兼六民謡会	220 名
第 2 講義 2月5日	大衆演舞劇場 一春夏秋冬渡り鳥— 御供田幸子ショー 劇団「花幸会」座長 御供田 幸子 氏	277 名
第 3 講義 3月5日	教育よもやま話 北陸学院大学教授 村井 万寿夫 氏	255 名
第 4 講義 3月12日	あの歌・この歌「歌は心身の免疫力をアップする！」 うたごえ喫茶の店 珈琲ラウンジあかとんぼ オーナー・アコーディオン奏者 米村 博実 氏	227 名
第 5 講義 3月19日	本願寺蓮如と加賀・能登 真宗大谷派 光琳寺住職 木越 祐馨 師	231 名
第 6 講義 3月27日	幸福寿命を生きる 石川県立看護大学学長・東京大学名誉教授 真田 弘美 氏	203 名
入学生徒数		355 名
卒業証書授与者数		192 名

5 身体障害者等移送サービス事業

福祉車両を配置し、公共の交通機関を利用することが困難な身体障がい者や要介護高齢者の外出支援を行った。（利用登録者 43 名）

【月別延べ利用人数】

（単位：人）

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
36	35	36	36	8	9	8	11	10	9	11	14	223

6 老人福祉員事業（町受託事業）

町内の一人暮らし高齢者の安否確認や日常生活の支援をすることで、地域で安心した生活が送れるよう 368 名の老人福祉員を配置した。

【老人福祉員配置状況一覧】

（単位：人）

地 区	一人暮らし		老人福祉員	地 区	一人暮らし		老人福祉員
	男	女			男	女	
高浜地区	60	125	20	福浦地区	15	27	0

志加浦地区	57	58	45	熊野地区	18	29	24
堀松地区	27	41	6	富来地区	34	64	49
上熊野地区	24	30	26	稗造地区	12	14	6
土田地区	40	57	32	東増穂地区	23	38	5
加茂地区	11	19	23	西増穂地区	19	30	24
下甘田地区	14	23	15	西海地区	29	41	14
中甘田地区	38	43	31	西浦地区	32	60	48
				計	453	699	368
					1, 152		

7 高齢者等除雪対策事業（町受託事業）

自力で除雪が困難な高齢者世帯等に対し、小型除雪機等による除雪作業の支援及び融雪剤の配布を行い、安全と安心を図った。（除雪：延べ利用人数 18 名、融雪剤：延べ配布人数 3 名）

8 ひとり親家庭等・低所得世帯学習支援事業（町受託事業）

ひとり親家庭等や低所得世帯の児童に対し、学習指導や日常生活相談などの家庭以外の居場所の提供を通じた人的支援を行うことにより、学力の向上等を図り将来の安定的な就業と自立の促進につなげるため、参加者を募り学習支援を行った。

（小学生対象 開催時期 7～8 月、回数 5 回、登録人数 5 名、延べ参加人数 14 名）

9 福祉サービス利用支援事業（県社協受託事業）

認知症高齢者等、判断能力が十分でない方に対して、金銭管理や福祉サービス利用等の援助を行うことで、地域において自立した日常生活を送るための支援を行った。（4 名）

10 広報啓発事業

社協広報誌「しかふくし」を年間 4 回発行し、ホームページで地域福祉に関する広報・啓発を行った。（ホームページアドレス <https://shika-shakyo.or.jp>）

11 福祉団体事務局

各種団体の事務及び活動の支援を行い、事業の活性化及び自立促進に努めた。（ボランティア連絡協議会、民生委員児童委員協議会、老人クラブ連合会、心身障害者福祉協会、母子寡婦福祉会、遺族会、英霊にこたえる会、赤十字奉仕団、リハビリ友の会、地域福祉推進チーム）

12 人工透析通院助成事業

福祉有償運送を利用して通院する人工透析患者に対して、運送料金の助成を行った。

【月別利用者数】

（単位：人）

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
3	3	3	4	3	3	5	5	4	4	4	3	44

13 フードバンク・フードドライブ事業

企業や家庭で備蓄されている食品の寄贈を受け、生活困窮者や福祉団体など、食の支援を必要としている方へ提供した。（受贈 14 件、提供 23 件）

Ⅲ. ボランティアセンター活動事業

1 ボランティアの登録・斡旋・相談

ボランティア活動者を登録し、活動の斡旋を行うとともにボランティア活動に関する相談を受けた。

2 ボランティア活動保険の加入

ボランティア活動保険等の加入手続きと掛金の助成を行った。（活動保険加入者 1,657 名、行事用保険 7 団体、福祉サービス総合補償 2 件、送迎サービス補償 3 件）

3 ボランティア活動の支援

古切手、プリペイドカード、インクカートリッジ等の収集と情報提供を行った。

4 ボランティア団体の支援

各団体の活動が計画的・継続的に発展するために相互の連絡調整を行った。

5 各種用具の短期間貸出

ボランティア団体やそくさい会等にレクレーション用具等の貸出を行った。

6 地域介護予防活動支援事業（町受託事業）

高齢者の閉じこもり防止と介護予防支援のため、そくさい会連絡会を 8 回開催し、そくさい会へ職員派遣などの活動支援及び指導を行った。

【そくさい会地区別開催一覧】

名称	回数	名称	回数	名称	回数	名称	回数
1・3区小浜	12	緑ヶ丘	11	米浜メンズ	8	赤崎	12
6区	12	北吉田	12	福野	9		
あさひ	12	清水今江	12	大島	12		
はまなす	12	末吉	12	坪野	10		
東旭	12	釈迦堂	12	ふくら	12		
川尻	12	直海	12	豊後名	12		
町	12	米町	12	中山	12		
安部屋	12	牛ヶ首	12	富来地頭町	12		
安部屋営団	12	仏木	12	富来領家町	12		
上野	12	印内	12	しおさい	12		
大津	12	たにや	12	富来高田	12		
小浦	12	安津見	12	稗造健康サロン	12		
百浦	12	二所宮	12	給分	12		
赤住	12	福井	11	中浜	12		
のとり	12	米浜	12	西海風無	13	実施 46 か所	542

IV. 赤い羽根共同募金・歳末たすけあい募金配分金事業

1 一般募金配分金事業

令和 6 年度に集まった一般募金から配分を受け、福祉教育や地域福祉に関する事業を実施した。

(1) ひとり親家庭で義務教育が修了する生徒へ記念品を贈呈した。(13 件)

(2) 社協広報誌「しかふくし」を発行し、社協活動の PR を行った。(年 4 回)

(3) 外出支援事業として車いすの貸し出しを行った。(27 件)

(4) 生活サポート事業として、在宅で援助が必要な要支援者に対して、志っ賀りサポート隊を派遣して一緒に家事援助等を行うことで、自立した生活を支援した。

（利 用 者：利用者 12 名、延べ利用人数 68 名
サポーター：登録 80 名、活動者 11 名、延べ活動人数 113 名）

(5) 地域支え合いセンターと協力して、仮設住宅入居者の方へ生活用品を贈った。(351 世帯)

2 歳末たすけあい配分金事業

令和 7 年度に集まった歳末たすけあい募金から配分を受け、一般募金配分金と合わせて仮設住宅入居者の方へ生活用品を贈った。

V. 志賀町共同募金委員会事業

1 会務・組織運営

運営委員会、審査委員会、監事会の開催と会計事務を行った。

2 赤い羽根共同募金運動の実施

10 月から 12 月までを運動期間とし、各区への戸別募金の依頼や募金箱の設置を行った。

【募金内訳】

種 別	件数(件)	金額(円)	備 考
戸別募金	120	1,295,800	目安額1戸250円
街頭募金	3	91,502	ロッキー志賀の郷店、どんたく高浜店、ショッピングモールアスク店
学校募金	3	33,483	小学校1校、中学校1校、高校1校
職域募金	3	60,022	役場職員互助会、志賀農業協同組合、志賀町社会福祉協議会
法人募金	0	0	
募金箱	49	127,693	町内の郵便局、金融機関、飲食店等
個人募金	10	5,535	ふるさとサポート募金(全国の方から)、PayPay募金
イベント募金	1	10,010	防災・世代間イベントinしか
その他	6	1,011,955	一般社団法人Mindful、匿名寄附、預金利息
合計	195	2,636,000	

【使途内訳】

(単位：円)

種 別	金 額	備 考
広域配分	362,000	石川県共同募金会へ
運動経費	4,000	令和8年度一般募金の活動経費へ
社会福祉事業配分	2,192,000	令和8年度の事業へ
災害準備金拠出額	78,000	令和7年度災害準備金拠出分
合計	2,636,000	

- 3 歳末たすけあい募金運動の実施
12月に歳末たすけあい募金運動として、ロッキー志賀の郷店で志賀高校生と街頭募金を実施し、41,464円の募金が寄せられた。
- 4 広報活動
社協広報誌「しかふくし」において、募金活動の周知を図った。
- 5 町内の福祉団体への事業助成を行った。(老人クラブ連合会、手をつなぐ育成会、母子寡婦福祉会、心身障害者福祉協会、社会福祉協議会)また、ボランティア活動普及のため、町内の学校にボランティア事業に対する助成を行った。(富来中学校、志賀高校)

VI. 日赤志賀町分区事業

1 赤十字社員増強運動の実施

- (1) 5月を赤十字運動月間とし、全戸に広報誌を配布した。
10月に全戸に広報誌を配布した。また、志賀地域においては赤十字奉仕団に依頼、富来地域においては集金用封筒を郵送して、日赤会員の会費の徴収を行った。

【社資内訳】 (単位：円)

区 分	金 額
戸 別	1,280,800
会 費	714,360
寄 附	1,600,000
募金箱	0
合 計	3,595,160

【加入会員数】 (単位：人)

区 分	一般会員 ()は新規加入	赤十字奉仕団
金色有功章	2 (0)	0 (0)
銀色有功章	0 (0)	1 (0)
特別社員	414 (2)	34 (0)
協力会員	33 (2)	93 (0)
合 計	449 2	128 0

- (2) 特別社員及び有功章社員が死亡した際、日本赤十字社石川県支部長の弔電をお供えした。
(19名)

2 災害救護活動の実施

家屋火災の被災者へ毛布及び緊急セットを配布した。(1世帯)

3 大規模災害への対応

日本赤十字社石川県支部から令和6年能登半島地震災害義援金受付の要請を受け、継続して受付を行った。

VII. 貸付事業の実施

1 生活福祉資金貸付事業（県社協受託事業）

低所得世帯、障害者世帯及び高齢者世帯に対して、その世帯の経済的自立、在宅福祉及び社会参加の促進を図り、安定した生活を送ることができるよう生活福祉資金の貸付事務を行ったが、令和7年度における貸付は0件であった。

2 小額貸付事業

緊急に生活資金を必要とする者に対し、生活のつなぎ資金として小口貸付を行い、生活の安定を図った。令和7年度における貸付は5件であった。

VIII. 在宅介護サービス事業

1 居宅介護支援事業

在宅の要介護及び要支援高齢者に対して日常生活を営むために必要なケアプランを作成し、町や福祉サービス提供事業者と連携を図りながら、適切な保健医療・福祉サービスが効果的に提供されるように努めた。

【年度別利用者実績】

(単位：人)

	令和7年度	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度
富来	632	575	618	787	769
志賀	1,280	1,188	1,197	1,185	1,183

【月別利用者数】

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
富来	51	53	48	49	50	49	52	56	56	56	55	57	632
志賀	103	103	107	108	109	106	109	112	106	108	103	106	1,280

【要介護度別延べ利用者数（割合）】

(単位：人)

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
富来	268(42.4%)	250(39.6%)	71(11.2%)	34(5.4%)	9(1.4%)	632
志賀	417(32.6%)	494(38.6%)	197(15.4%)	113(8.8%)	59(4.6%)	1,280

【月別介護予防ケアプラン作成件数】

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
富来	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
志賀	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2

2 訪問介護事業

要介護高齢者に対してホームヘルパーを派遣し、在宅で日常生活を営むことができるよう生活援助及び身体介護サービスの提供を行った。

【年度別利用者実績】

(単位：人)

令和7年度	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度
715	660	872	1,071	1,051

【月別利用者数】

(単位：人)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
50	56	61	63	57	57	63	64	63	63	59	59	715

【要介護度別延べ利用者数（割合）】

(単位：人)

要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	計
261 (36. 5%)	282 (39. 4%)	82 (11. 5%)	42 (5. 9%)	48 (6. 7%)	715

【要介護度別延べ提供回数（割合）】

(単位：回)

要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	計
2, 561 (24. 4%)	4, 203 (40. 0%)	1, 669 (15. 9%)	717 (6. 8%)	1, 365 (13. 0%)	10, 515

3 介護予防・日常生活総合支援事業

要支援高齢者及び事業対象者に対してホームヘルパーを派遣し、必要な援助を行うことで自立した日常生活を継続できるように努めた。

【年度別利用者実績】

(単位：人)

令和 7 年度	令和 6 年度	令和 5 年度	令和 4 年度	令和 3 年度
206	161	221	296	315

【月別利用者数】

(単位：人)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
19	17	16	17	18	18	17	17	18	18	15	16	206

【要介護度別延べ利用者数（割合）】

(単位：人)

事業対象者	要支援 1	要支援 2	計
13 (6. 3%)	3 (1. 5%)	190 (92. 2%)	206

【要介護度別延べ提供回数（割合）】

(単位：回)

事業対象者	要支援 1	要支援 2	計
56 (5. 5%)	8 (0. 8%)	957 (93. 7%)	1, 021

4 在宅高齢者軽度生活援助事業（町受託事業）

介護認定で自立と判定された独居高齢者等に対してホームヘルパーを派遣し、軽易な日常生活の援助を行うことで自立した在宅生活の継続及び要介護状態への進行防止を図る事業であるが、令和 7 年度の利用は 0 件であった。

【年度別利用者実績】

(単位：人)

令和 7 年度	令和 6 年度	令和 5 年度	令和 4 年度	令和 3 年度
0	0	0	0	0

5 居宅介護事業

障がい者(身体・知的・精神)に対してホームヘルパーを派遣し、身体介護や自立した日常生活が送ることができるよう家事援助等の支援を行った。

【年度別利用者実績】

(単位：人)

令和 7 年度	令和 6 年度	令和 5 年度	令和 4 年度	令和 3 年度
82	98	168	198	208

【月別利用者数】

(単位：人)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
7	7	8	7	7	6	7	7	7	6	7	6	82

6 重度訪問介護事業

重度の肢体不自由または重度の知的障がい、もしくは精神障がいがあり常に介護を必要とする方の居宅に訪問し、入浴、排泄、食事等の生活全般にわたる援助や外出時における移動中の介護を総合的に行うことで、在宅での生活が続けられるように支援を行う事業であるが、令和 7 年度の利用は 0 件であった。

【年度別利用者実績】

(単位：人)

令和 7 年度	令和 6 年度	令和 5 年度	令和 4 年度	令和 3 年度
0	0	0	0	0

7 同行援護事業

視覚障がいにより、移動に著しい困難を有する方等に対してホームヘルパーを派遣し、外出時における移動に必要な情報を提供するとともに移動の援護を行う事業であるが、令和7年度の利用は0件であった。

【年度別利用者実績】

(単位：人)

令和7年度	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度
0	0	0	0	0

8 移動支援事業（町受託事業）

屋外での移動が困難な障がい者等に対して、ホームヘルパーによる外出の支援を行い、地域での自立生活及び社会参加の促進を図った。

【年度別利用者実績】

(単位：人)

令和7年度	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度
8	18	21	19	10

【月別利用者数】

(単位：人)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
1	2	1	1	0	0	0	0	0	1	1	1	8

9 産前・産後等ヘルパー派遣事業（町受託事業）

家事や育児等に不安を抱える子育て家庭、妊産婦、ヤングケアラー等がいる家庭に対して、ホームヘルパーを派遣し、福祉の向上を図った。

【年度別利用者実績】

(単位：人)

令和7年度	令和6年度	令和5年度
4	0	0

【月別利用者数】

(単位：人)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
0	1	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	4

IX. 地域包括支援サブセンター受託事業（町受託事業）

1 高齢者総合相談支援業務

高齢者の生活や介護などの困りごとについて相談を受け付け、個々の高齢者にどのような支援が必要なのかを判断し、地域における適切なサービス、福祉・医療関係機関などにつなげる等の支援を行った。(69件)

2 権利擁護業務

高齢者の人権や財産を守る権利擁護事業、高齢者自身が自分の判断で財産等を管理することができなくなった時に活用される成年後見制度など、権利擁護に関するサービスや制度を活用するために、行政機関や福祉関係機関につなぎ、高齢者の虐待防止や消費者被害の防止を図った。(3件)

3 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

地域の介護支援専門員や主治医をはじめ、民生委員や老人福祉員等様々な福祉・医療の関係者が連携・協働することで、保健・医療・福祉、その他の生活支援サービスを含め、地域における様々な社会資源を活用し(包括的)、高齢者がどんな心身状態になっても途切れることなく(継続的)、在宅でも施設でもその方の生活を支援した。(延べ58件)

4 介護予防支援と介護予防ケアマネジメント業務

要介護・要支援認定における要支援1・2の方及び事業対象者に対する介護予防支援、要介護・要支援状態になる恐れがある方に対するケアプランの作成を行い、適切なサービスが包括的かつ効果的に提供されるよう必要な援助を行った。(延べ257件)

X. 在宅医療・介護連携支援センター受託事業（町受託事業）

1 在宅医療に関する専門相談業務

かかりつけ医や介護支援専門員といった医療・介護等のサービス提供者からの在宅医療サービスに関する相談（訪問診療、訪問看護、後方支援病院等）に対して、必要な情報提供、支援及び調整を行った。（延 112 件）

2 病院からの退院調整の支援業務

退院後の円滑な在宅医療を開始する際に支障がある場合、医療機関の地域連携室からの要請に応じ、医療機関が実施する退院調整の支援を行った。（延べ 6 件）

3 多職種・多機関の連携推進

地域の医療・介護等関係者の連携を実現するため、お互いの業務の現状等を知り、顔の見える関係づくりを目的とした研修会等を行った。（74 回）

XI. 災害ボランティアセンター事業（町受託事業）

令和 6 年能登半島地震の被災者を支援するため、毎週金・土曜日を活動日とし、ボランティアの受入れ、関係機関との調整事務などを行った。10 月 31 日をもって新規ニーズの受付を終了し、11 月 29 日に災害ごみ仮置き場の一般受入終了にあわせて、一般ボランティアの受入を終了した。令和 8 年 3 月 31 日に災害ボランティアセンターを閉鎖した。

【活動実績】

（令和 8 年 3 月 31 日時点）

月	ニーズ件数				ボランティア 受付（人）
	受付	完了	取消	残り	
令和 7 年 3 月 までの累計	2,947	2,597	303	47	11,435
令和 7 年 4 月	77	65	2	57	230
5 月	51	60	5	43	221
6 月	57	57	1	42	192
7 月	48	43	2	45	131
8 月	34	42	1	36	151
9 月	42	36	2	40	151
10 月	110	51	1	98	134
11 月	0	87	5	6	181
12 月	0	3	0	3	14
令和 8 年 1 月	0	0	0	3	0
2 月	0	0	0	3	0
3 月	0	0	0	3	0
累計	3,366	3,041	322	3	12,840

XII. 地域支え合いセンター事業（町受託事業）

1. 訪問活動

能登半島地震により被災した住民の見守りと相談支援を行うため、仮設住宅や在宅被災者も含めて全戸訪問を実施した。

【訪問事業実績】

（令和 8 年 3 月 31 日時点）

月	応急仮設	みなし仮設	在宅	合計
令和 7 年 3 月末 までの累計	4,642(2,023)	973(431)	7,439(3,810)	13,054(6,264)

令和7年 4月	667(479)	94(38)	1,930(828)	2,691(1,345)
5月	437(249)	99(39)	1,968(974)	2,504(1,262)
6月	545(355)	70(28)	1,389(766)	2,004(1,149)
7月	503(309)	181(91)	425(175)	1,109(575)
8月	620(408)	102(58)	659(307)	1,381(773)
9月	738(453)	65(45)	324(148)	1,127(646)
10月	1,074(740)	136(118)	264(197)	1,474(1,055)
11月	538(424)	70(36)	265(117)	873(577)
12月	974(637)	63(39)	787(375)	1,824(1,051)
令和8年 1月	651(490)	109(77)	848(300)	1,608(867)
2月	899(592)	55(41)	534(200)	1,488(833)
3月	589(416)	38(27)	480(184)	1,107(627)
累計	12,877(7,575)	2,055(1,068)	17,312(8,381)	32,244(17,024)

※令和6年度は7月から令和7年3月までの9か月間の実績
() 内の数字が面会できた件数、訪問・来所・架電含む

2. 会議等の開催

(1) 判定会議 27回

被災者（主に仮設住宅入居者）の生活状況の確認や定期見守り訪問回数の判定、生活再建の進捗状況について情報共有を図った。

(2) ケース会議 11回

関係者がお互いの情報を共有し、課題のある被災世帯の支援方針を決定し、役割分担のうえ支援を行った。

(3) 被災者見守り支援事業等における連携会議 5回

被災者等に対し、見守り支援活動の円滑化を図るため、仮設住宅支援に関する課題の確認及び各種制度の現状や確認事項を共有した。

(4) 被災者支援団体連携会議 2回

各支援団体から活動状況等の報告と偏りのない支援を行うための調整を行った。

(5) 被災者支援団体と医療・福祉関係者との情報共有会議 1回

個別支援に関する情報の共有と連携強化を図った。

3. 交流会、相談会の開催

(1) おでかけバス 4回

仮設住宅の住民同士がバスに乗車してショッピングセンター等に出かけることで、交流機会を創出した。

(2) 支え合いセンター主催のイベント 7回

サロンや茶話会、イベント等の実施を通して、住民同士が「互いに気かけ合い、見守り合える関係性」の構築を図った。

(3) 復興リハ主催アクティビティセンターの運営支援 52回

石川県復興リハビリテーション事業の運営支援を行った。主に仮設住宅集会所において生活不活発を予防するための体操や、それぞれの能力に応じた作業活動を手伝った。

(4) あおぞらカフェ（NPO法人 LOVE EAST 主催） 25回

仮設住宅の屋外で行うカフェの運営支援を行い、集会所等の屋内では入りづらい方がいるた

め、屋外にテントを張って開催し、住民への参加の声掛けや傾聴活動を行った。

(5) 菜園づくり事業 (LOVE EAST と社協の共催) 14 回

石川県コミュニティ再建事業を活用した菜園スペースでの野菜づくりや花植えを通して、被災者同士の対話や交流を促し、地域のつながりの構築を図った。孤立や引きこもりを予防するとともに、お互いに支え合い、安心して暮らせる地域づくりを支援した。

(6) 石川ひとつなぎフェスタ (石川県主催) への参加支援 3 回

石川県及び NPO 法人全国災害ボランティア支援団体ネットワークが LAKUNA はくいにおいてモルック大会を開催し、12 市町から 21 チームが参加した。石川県コミュニティ再建事業を活用してモルック体験会を実施していたとき第 6 団地ととき第 8 団地の入居者が参加した。大会という目標ができたことで、練習を通して対話や交流機会が増え、コミュニティのつながりが強化されるなど、孤立や引きこもりの予防につながった。

(7) 災害ケースマネジメント事業 5 回

被災者の自立・生活再建が進むように「災害ケースマネジメント」の手法に基づいて、社会福祉士が支え合いセンターと情報共有しながら支援を行った。

(8) 仮設住宅における NPO 法人等と連携した個別避難計画作成のモデル事業 5 回

とき第 7 団地において、避難支援の必要性が高い住民を選定して、要支援者を含む住民参加型の個別避難計画作成会を開催した。住民同士の話し合いを通して具体的な個別避難計画を作成した。

(9) 各種イベントの運営支援 13 回

支援団体が開催するイベントの運営支援を行った。

(10) 町外避難者への支援 3 回

町外へ出向いて、志賀町出身者に対して傾聴活動を行った。

4. 職員研修の参加及び実施

(1) 生活支援相談員研修会 31 回

支援制度の理解、福祉に関する知識の習得のため、石川県支え合いセンターが主催するオンラインサロンや研修会及び制度説明会等に参加した。

(2) アドバイザーとの定例ミーティング及び研修会 7 回

現状報告と特徴的な出来事を共有し、訪問活動における課題の改善を図った。